

中学校部活動の地域移行についての“おたより”です

令和7年5月号（No.3）

伊那市立中学校部活動の地域移行協議会

事務局：伊那市教育委員会学校教育課

☆ 今回の「おたより」では、懇談会などで聞かれた意見や今後のスケジュールについて、現状や考え方をお伝えします。

テーマ1 部活動の考え方を見直す

考え方1 今、まさにそのときだと考えています。

平成29年に告示された「中学校学習指導要領」の総則第1章第5節1ウには、次のような記述があります。

ウ 教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加による部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

部活動は、学校の判断により実施しないこともあり、また、全ての生徒が一律に加入しなければならないものでもなく、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものです。

部活動の目的：生徒の自主的、自発的な参加により、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもの

部活動を支える：学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにする

○ 多様な生徒やそのニーズに合わせ、活動内容や活動時間等を工夫することや複数のスポーツや文化芸術活動等も含めて、幅広く経験できるよう配慮することが大切だと考えています。

テーマ2 地域クラブへの移行の意味をもう一度確かめる

考え方2 中学校部活動の地域クラブへの移行の目的は、次のとおりです。

- 地域において、子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境を構築する。
- 教員の部活動への負担を軽減し、学校教育の質の向上を図る。

子どもにとっても、保護者にとっても、学校・教員にとっても、地域にとっても“Win-Win”の関係を築くことができるクラブをつくることが重要だと思います。

しかし、全ての方々が初めて向かうことなので、スナリとはいかないと思います。

伊那市のスローガン「はじめにこどもありき」をそれぞれの立場で確かめ、協働・協労、共学・共創しながらお互いの力を紡ぎ合い進めていきたいと思っています。

“令和9年度から、地域のクラブで活動する子どもたちの姿を目指して”